カトリック二俣川教会
教会だより
２０２５年 10 月号
No.386
（２０２５年 10 月 5 日 発行）

二十六聖人

《 ロザリオの月 》

日本二十六聖人殉教者

聖ヨハネ絹屋（きぬや）

21、談義者(教義などを説き明かす人)。キリスト教の教えを聞き、改宗。その後、フランシスコ会の伝道士として働く。36 歳。伊勢生まれ。

日本二十六聖人殉教者

聖トマス

22、修道院近くに住み、多くの外国人宣教師と出会い、その教えを聞いて洗礼を受ける。織物師。28 歳。京都生まれ。

巻頭言：すべてのいのちを守るためには

10月に入り、ようやく季節の変わり目を感じ始めました。先日、テレビを見ていたら日本の季節は近いうちに四季から二季になるようなことを言っていました。確かにこの夏は40℃超えの気温もあり、一方でゲリラ雷雨などの災害も多くありました。地球全体が異常気象ということを感じるところです。

さて、日本のカトリック教会は、毎年９月１日の「被造物を大切にする世界祈願日」から10月４日のアッシジの聖フランシスコの祝日までを「すべてのいのちを守るための月間」として定め、行動しています。2023年10月2日に、フランシスコ前教皇の使徒的勧告『ラウダーテ・デウム（神をほめ たたえよ)』が発表されました。これは、2015年に発表された回勅『ラウダート・シ』を補い、完成させるものです。これを通して、前教皇は、私たちの行動は未だ不十分で状況は危機的であること、また気候変動の否定論者に対し、地球温暖化の原因は人的なものであること、一方で私たちが共に住む地球 へのいたわりはキリスト教信仰から湧き出るものであることを示しています。

フランシスコ前教皇が選ばれた時、フランシスコという教皇名を選んだのは、彼がアッシジの聖フランシスコを尊敬していたからです。アッシジの聖フランシスコは13世紀イタリアの聖人、貧しくシンプルな生き方を選び、自然の中に神様の愛と慈しみを感じ、それを人々に伝えた聖人でした。13世紀のヨーロッパの気候が温暖だったことと聖フランシスコが自然の中に神様の慈しみを感じたことは無関係ではないでしょう。

フランシスコ前教皇がこの名前に選んだことからも、教皇が環境問題を強く意識していることはよく分かります。教皇は教会の環境問題に対するあり方を自身の書「ラウダート・シ」で示しています。「ラウダート・シ」(主よ、あなたを褒め称えます)とは聖フランシスコの神様に対する讃歌の一節です。

「ラウダート・シ」の精神は現在、ラウダートシゴールズ、LSGs という7つの目標にまとめられています。みなさんは環境に対する目標がラウダートシゴールズ、LSGs だと「何だ、SDGs の真似か～」と思うかしれません。確かに環境や自然に対する取り組みには共通の部分がありますが、LSGs 特有の視点もあります。それは環境問題への取り組みが神様の前での回心でもあることです。地球や自然、そして人間社会も神様の愛と慈しみの溢れる場であり、人間はそれらを大切にし、きちんと管理する奉仕の使命を与えられています。英語ではそれを stewardship といいます。私たちは自然や人々を傷つけ神様を悲しませている生き方を正し、回心する、これが LSGs の精神です。環境問題への取り組みは神様から私たちに与えられている召命の一つのあり方でもあるわけです。

皆様の中でも日常生活の中で節電や節約などで、環境問題を気にかけている方はいるかと思います。私たちはそうした行いを通して、すべてのいのちを守る努力をしていけるように、そして人間はあくまでも神様からこの地球や自然を委ねられているということを忘れてはいけません。このことを意識して心に留めながら、この「すべてのいのちを守るための月間」を過ごしていきましょう。

マキシミリアノ・マリア・コルベ　内藤 聡

2025 年 9 月 （9 月 7 日 開催）

【検討・報告事項】

1．事務所アンケートの信徒意見検討

前回教会委員会以降に受けたアンケート回答は全 3 通でした。そのうち既に検討した意見と異なるものを取り上げて検討しました。

①「事務所閉所後は神父様が対応すると聞いていたが、神父様が事務所にも執務室にもいない。」

普段、神父様は三階司祭館にて、執務されています。事務所閉所時も、外線から教会へ電話するか表玄関のインターホンを押せば司祭館に繋がります。

②「事務所閉所後に印刷やコピーができない。」

事務所印刷機を使うときは、神父様に事務所を開けてもらってください。また、二階コピー機が閉所後も使えるようにコピーカードの保管場所を変える予定です。

③「ボランティアによる運営では全体を一貫して見渡せずニーズに的確に対応できない。」他

そのために、事務所担当の教会委員がいます。また、ボランティア全員で毎日、事務所での出来事を日誌等で共有しています。勿論、まだ経験値が足りず、心配に見える部分もあるかと思いますが、ご協力と温かい目での見守りをお願いします。ボランティアの知識強化のための勉強も具体的に進めていきます。

④「立替金支払いが二週間後なのは困る。以前は即対応だった。」

事務所の業務と財務の業務を切り離し、ボランティアに負担のない体制とするために事務所に現金を置かないこととしました。現在、さらにスムーズに立替金をお渡しできるように事務所と財務の情報共有上の連携を強化しました。ご理解のほどお願いします。なお、立替金が高額になるときは事前に仮払いを請求して、後で精算してください。

⑤「体制変更については、教会委員会で検討すべき。」他

事務所の体制変更直後は業務遂行最優先でしたが、その後の教会委員会で旧体制についての課題と解決策を検討しました。それをもとに体制変更の大枠を「運営方針」として定めています。残された課題は少なからずありますので教会委員会で漸次改善していきます。

2．2025 年バザー

10 月バザー（10/26）の実行委員会を立ち上げました。12 月バザー（12/7）の実行委員会は 10 月に立ち上げる予定です。

3．敬老の集い、ナン神父様初ミサ

準備状況についての報告がありました。

4．バーチャル巡礼

バーチャル巡礼とは、巡礼したくても出来ない方と巡礼の感動を分かち合う活動です。皆さんが巡礼で撮影した写真や動画を投稿し、誰でも閲覧できる仕組みをインターネット上に作りました。投稿閲覧方法は別途ご案内します。

【各会報告】

1．典礼委員会

・10 月 5 日(日)10 時ミサの中で「水の祝別」を行います。

・ロザリオの祈り（10 月中）
ミサ 20 分前から一連のみ行います(日曜日 7 時は除きます)。

・死者の日の祈りのノート
10 月 4 日(土)から 10 月 26 日(日)の期間中にご記入してください。死者の日のミサの中で追悼意向を希望される方は、1 階ロビーの机に置いてある専用の「意向依頼用紙」にご記入いただき、回収箱にお入れください。〆切：10 月 26 日(日)

2．教会学校

・初聖体を受けた子どもたちが 9 月から侍者会に加わりました。あたたかく見守ってください。

・11/16 子供ミサで七五三のお祝いをします。10 月に申込案内をする予定です。

・敬老の集いのお祝いのために動画を撮影しました。また、10 月バザーでミニ・ランタン作りのクラフトコーナーを企画しています。

3．キリスト教講座

・入門講座開催予定　9/13、9/27、10/11、10/25

・シスター小野ビデオ視聴予定
10/12(第 9 回)、10/26(第 10 回)

・聖書の集い予定
9/14(ルカ 16・1-13)、10/12(ルカ 18・1-8)

4．福祉委員会

南三陸でカリタスのベース長を長らく勤められている C さんの講演会を企画しています。

5．建物管理委員会

9 月に聖堂天窓の破風幕板と聖堂後方の非常扉を修理する予定です。

6．共同墓地委員会

・8 月実績　生前予約者 3 名手続き中、生前予約相談 2 名。改葬納骨相談 1 名対応中。

・9 月予定　9/19 改葬納骨、11/3 合同追悼ミサ・合同納骨式

7．ヨゼフ会

8 月は活動なし。9/14 敬老の集いでコーヒー提供、9/21 定例会、9/28 ナン神父様祝賀会でコーヒー提供の予定です。

8．マリア会

・マリア会運営 8/24 実施、9/11 予定

・9/21 マリア会例会予定

・アンナ会　8 月は休会。9/8,22 活動予定

・ボリビア支援グループ　8/29 会議、8/31「のんびり日曜日」実施。

・ステラマリス帽子を編む会　8/22,28 活動、9/19,25 活動予定

・パーティー係　敬老の集い準備 8/30 実施、9/13,14 予定。ナン神父様初ミサ準備 9/27,28 予定。

9．青年会

・8/23-24 に第三地区中高生夏企画を行いました。一日目は二俣川教会泊、二日目に磯子教会へ移動しました。小 6 から高 3 の延べ 14 人が参加し、末吉町の子供たちなど多国籍の交わりも楽しみながら経験できました。送迎、食事の用意と片付け、見守りなど沢山のご協力に感謝します。

・ナン神父様初ミサのお祝いに向けて横断幕を作る予定です。

１０．インターファミリー

ナン神父様初ミサの準備を進めています。

１１．一粒会

第 57 回一粒会大会（10/13）は二俣川教会より 24 名が参加予定です。

１２．地区世話人会関連

10/19 世話人会、11/9 世話人連絡員会の予定です。

以上

ベトナム叙階式参列ツアー参加記
((初ミサ編))

叙階式翌日の８月５日、ホーチミンシティを発ち、一路ハノイへ。その日は市内を観光し、宿泊先であるタイビン教区の司教館へ。広大な敷地に荘厳な司教座聖堂と司教館の施設。宿泊施設の中庭にはテニスコートまでありました。司教様にご挨拶し、日本からのお土産を差し上げて、司教館でご用意くださった夕食をいただきました。夕食後、全員ではありませんが多くのツアーメンバーは、ナン神父様の出身教会(ズイエンラン教会)での『初ミサ前夜祭』へ出かけました。手配してくださった小さなバスに揺られて 30 分。細い道で入れないのでバスを降り、静かな住宅街に入って歩いて行くと聞こえてきたのは、さながらライブ会場のような音楽とライトアップされた教会の建物でした。そして、大きな大きなナン神父様のポスターを目にし、驚きと興奮に包まれました。信徒館まで案内され、主任司祭のヨゼフ神父様や教会委員長、ご家族にご挨拶。そんな中、時々お部屋を覗きに来るのは、様々な衣装を纏った子どもたちや青年たち。「どうぞ入って、写真を撮りましょう～」と声をかけたら、出てくる出てくる(笑)あっという間にたくさんの子どもたちに囲まれて、盛り上がりました。圧倒されるほどの心からの歓迎を受け、感激と感謝で胸がいっぱいとなりました。すると聞こえてきたのは、大きな太鼓の音とサックスチームの賑やかな演奏。なんだなんだ？と外に出たら、いよいよ前夜祭の始まりです。見たこともないような大きな太鼓やドラ、アルトサックスチームの演奏。演奏者は老若男女、そのパワフルさに驚くばかりでした。舞台では、たくさんのグループが舞い踊り、お祝いと喜びを表現されていました。感動は突然やってきました。舞台右手のスクリーンに、見覚えのある顔が映し出されたのです。それは、二俣川教会や神学院、司牧実習先の教会での思い出写真が集められた映像でした。ベトナムに来ることができなかったけれども、いま、ナン神父様のために祈っている仲間たちの様子が次々に思い起こされ、感動の涙が止まりませんでした。ナン神父様の同級生で、大分教区で働いておられる山頭神父様と一緒にシャンパンを開けて大盛り上がり。最後にはみんなで踊りだし喜びと感謝を爆発させている様子に、ナン神父様を日本へ送ってくださる感謝が心の底から湧き上がりました。盛大な前夜祭は、マリア様への感謝の祈りで締めくくられました。８月６日、主の変容。忘れ難き前夜祭の様子をツアーメンバーで分かち合いながら、ズイエンラン教会へと向かいました。待っていたのは『ようこそ！カトリック DUYEN LANG 教会へ』の横断幕。温かな心遣いに早くも感激しながら、教会へ。昨夜とはまた違って細部まで見える聖堂や鐘楼の建造物の美しさに目を奪われ、温かな笑顔で迎えてくださる教会の皆様にあらためて感謝の気持ちでいっぱいとなりました。信徒館でお話ししていると、梅村司教様をはじめ日本から来た神父様方が到着され、大歓迎。挨拶を終えて控え室へ行った私たちは、こっそりと初ミサ後の祝賀会で披露する歌の練習を決行しました。いよいよミサが始まります。聖堂までの長い長い行列に加わることができたのは、とても感激でした。私たちは賛美の心溢れる美しい装飾が施された、歴史ある聖堂に

包まれるように入堂し、親族席の後ろの特別な場所に用意していただいた席に着きました。入堂の時から溢れる感謝と感激に涙が溢れましたが、同じくこの時を共にした神父様もこの感激をこのように話されていました『私も入堂の時から涙が出ていました。大勢の方々が、「腰に帯を締め、ともし火をともして」「待っておられた」からです』と。少し真面目な顔をして入堂していたナン神父様も、私たちを見つけて「パッ」といつもの大きな笑顔を見せてくださいました。ミサのはじめに、ズイエンラン教会の主任司祭、ヨゼフ神父様から歓迎の挨拶をいただきました。その中で紹介されたズイエンラン教会の歴史をご紹介します。『タイビン教区の中でも最も古い教会の１つで、16 世紀～19 世紀の迫害に耐え、信仰を強く育んできた教会。2 人の殉教者(主任司祭と信徒)が聖人となっていて、他にも列福や列聖を待つたくさんの殉教者たちのふるさとであること。移住時代と言われた、1954 年(71 年前)に信徒の 9 割がベトナム南部へ。残った 100 人は教会を守り、時を経て今は 800 人余りの信徒が生き生きと信仰を育んでいる。』歴史の中で、小さな教会となったことのあるこの教会が、いまや司祭を生み出す聖霊に満ち溢れた教会となったことを知り、とても感銘を受けました。初ミサの中で、第 2 朗読と共同祈願を日本語で奉仕する機会をいただき、共に捧げるミサの喜びが溢れました。本当に初めてでしょうか？堂々として、そして日本語を話す時とはまた違う美しい低音の声で、歌うように式文を唱えるナン神父様。祭壇の目の前で、正装をして初ミサを見守ってくださった梅村司教様への、声も心も震える挨拶。ご両親への按手と美しいレイ(花飾り)の交換。ひとつひとつが感謝と喜びと希望に溢れていました。荘厳な派遣の祝福をいただき、いよいよ初ミサも締めくくり。その時、聞こえてきたのは『ハイディ～ディカップ～』と私たちもよく知るこの旋律、『ゆけ　地の果てまで』でした。そしてなんと、ベトナム語で歌ったあとに聞こえてきたのは美しい日本語での歌声だったのです！感動冷めやらぬ初ミサの後、案内されたのは、美味しいお料理がのせきれないほど用意された、円卓が並ぶお庭の祝賀会場。たくさんのお料理が振舞われ、昨夜に続いて子どもたちが踊りを披露。その中で私たち日本からのメンバーもお祝いと感謝を伝えるために、お時間をいただきました。同じく叙階された藤沢教会のグエップ神父様に通訳をお願いし、お祝いと感激と感謝と、これからもナン神父様のためにお祈りしますという約束を伝えました。そして、二俣川教会での様子やベトナムへ行けなかった神父様方からのメッセージも盛り込んだムービー(皆で７月末にミサの後撮影したお祝い動画含む)を放映しました。締めくくりに、梅村司教様や稲川神父様をはじめとする日本からの神父様方とツアーメンバー全員でステージに上がり、『希望の巡礼者』を歌いました。１番日本語で(反応：あれ？この曲分かるよ、司教様も舞台に上がっているよ！) 2 番ベトナム語で(反応：え？ベトナム語だよ！わぁぁぁ～) 2 番途中からベトナム語ソロで(反応：わぁ！聴こう。シーン)、 3 番日本語で(反応：みんな大注目＆大集合)、最後の繰り返しはみんな一緒に(反応：感動の大合唱♪) この時の、神様に集められた者たちの一体感、希望溢れる高揚感はとても言葉では表現できません。続いて、二俣川教会からの叙階のお祝い・皆様からのメッセージを詰め込んだアルバム・青年たちがつくったモザイク画を贈呈。集まってくれた子どもたちや青年たちと一緒に写真を撮りました。特に、子どもたちやナン神父様のご家族と、名残惜しい気持ちでズイエンラン教会を後にしました。

《 ズイエンラン教会（出身教会）初ミサ前夜祭 》

《 ズイエンラン教会（出身教会）初ミサ》

スクリーンで７月末に
撮影した動画を放映→

↑二俣川教会からのお祝い、アルバム等の贈呈

ナン神父様の故郷、二人の殉教者を輩出したズイエンラン教会で行なわれた初ミサは、素晴らしいセレモニーで始まりました。司祭、信徒を先導するのは大きな銅鑼と巨大な大太鼓、賑やかに奏でる吹奏楽団。フランス様式の教会に一歩足を踏み入れると、正面には金とブルーで美しく彩られた壁面と聖人たちの像が並んでいます。入堂する司祭たちの行列の中に、新しいカズラ（祭服）をまとったナン神父様のひときわ輝く笑顔がありました。梅村司教様が見守られる中、修道会の前管区長や主任神父様らとともに捧げられた初ミサは感動のうちに進んでいきます。神様の恵みに養われ、ご両親とご家族の愛に育まれ司祭に叙階されたナン神父様の姿に、心が揺さぶられ涙が溢れました。神様に招かれ司祭を目指して故郷を離れ、難しい日本語を習得し、どんな時も笑顔と温かな気遣いで私たち

に応えてくださるナン神父様に、神様の更なる護りと祝福を願いました。

祝賀会では、私たちが歌う日本語とベトナム語の「希望の巡礼者」に拍手喝采、たちまち全員での大合唱となりました。それは国や民族や言葉の違いを越えて、まさに「キリストのうちにひとつになる」感動に包まれた瞬間でした！新司祭の誕生を心から歓び祝う信徒らの姿、人懐濃い子どもたちの笑顔、人々の温かい歓迎にも深く胸打たれました。日本を第二の故郷とするナン神父様の家族である私たちは、これからナン神父様のためにもっと祈り支えて行かなくてはと強く心に思いました。この特別な恵みを頂いた日々に深く感謝しています。

ナン新司祭の初ミサに与るため訪れたDuyen Lang 教会で前夜祭とミサ後の祝賀会が催された。ここで私はベトナムのカトリック教会の大きな力を見せつけられた思いがした。太鼓や楽隊の演奏、次々と繰り出される踊りのパフォーマンス。教区全体で新司祭誕生が祝われていた。言葉が通じない私たちを歓迎しようとする姿にもそれが現れていた。私が最も感銘を受けたのは子供たちによる司教、司祭、修道士、修道女の服装でのパフォーマンスだ。子供たちが望んだものなのか大人たちのアレンジなのかはわからないが、子供たちにとって聖職者への路への第一歩なのでは無いか。もちろんこの子たちが聖職者になるかは 20 年後にならないとわからないが、こうした雰囲気が子供たちの召命の路を醸成しているのではないかと感じた。
昨年仙台教区の教会でミサに与った際に話しかけてきた方が、「仙台教区はここ数年神学生が一人もでていない」と嘆いておられたのを思いだし、彼の地では身近に模範となる若い司祭、神学生がいることで新たな召命を生む素地があるように思えた。ナン司祭が他の 14 人と共に叙階された日、同じホーチミンの他の教会でも盛大な叙階式が行われるのをバスの中から眺めた。カトリック信徒が国の人口の 1 割に満たないベトナムで多くの司祭が誕生し続けていることに嬉しさと共に悲しさを覚えた巡礼であった。

伝統あるDUYEN LANG 教会では、日本からの巡礼団を大歓迎して下さいました。前夜祭からパーティーまで、教会を挙げての特別な祝祭ではあるけれど、けっして異例ではない、いつもの自然なお祭りとして皆でノリ良く楽しく歌って踊り、その中で客人を歓迎するという温かい雰囲気でした。信者の共同体が生活そのものなのだと感じました。初ミサの中で「行け行け地の果てまで」が日本語で歌われました。ナン神父様、カトリック教会の中では地の果てに近い最終布教国の日本によくぞいらして下さった、と感慨無量です。
パーティーで「希望の巡礼者」を歌い出したら、知っている歌だぞ？と空気が変わり、ベトナム語で歌い出したら一気に大盛り上がり！ナン神父様大好き！に子どもたちが自然に加わってくれて大成功。最高の企画に参加させていただきました。

あっと言う間の 5 日間でした。そして本当に素晴らしい時間を過ごさせて頂きました。出発前、私が想像していたのとは違い、ベトナムはパワーあるエネルギッシュな国。そして特にオートバイの多さ、信号がなくても皆上手に走り、歩行者はその中を上手に横断していたのに驚かされました。叙階式は大勢の人が見守る中、静かで重厚な時間が流れ、15 名の神父様が叙階されました。テントの中、正直暑かったですが、それを上回る大きな感動でした。ナン神父様の初ミサは、ご家族、ご親戚の方達は勿論、教会中が喜んでいらっしゃるのがすごく伝わりました。前夜祭にも

ご招待して頂き、忘れられない日になりました。そして大事なナン神父様を日本に送り出してくださる皆さんに本当に感謝したいと思います。二俣川教会でのナン神父様の初ミサを楽しみにしています。

この度、ナン助祭の司祭叙階式参列ツアーに参加しました。参加を決めたのは、ナン助祭の温かく優しい性格・人間性に触れるごとに、司祭叙階の時にはベトナムまで祝福に訪れようと決めていたからです。勿論妻も同様で二人で参加させていただきました。
叙階式等には日本ではこれまで経験したことがなかったので、比較する対象がイメージとしてないままに司祭叙階式に参列しました。
そして、叙階式開始後、その厳かにも圧倒的迫力をもって進行していく状況に真からただただ驚きと興奮、緊張状態におかれている自分がおり、終わってみれば長時間の叙階式が夢のように流れていったのを覚えています。
この緊張状態から解放されたのは、梅村司教様と稲川神父様がご挨拶に壇上に登って祝辞を述べたときでした。司教様の祝辞を聴いている時に、日本カトリック教会とベトナム修道者会の結びつきを意識し、安心を覚えていました。翌日には、ナン司祭の初ミサに出席するために、ホーチミンからハノイへ移動して前夜祭に出席しました。叙階式と異なって、ナン司祭の出身教会で行われた前夜祭は人々のフレンドリーな応対に夜が更けていくことも忘れて皆で喜びあっていました。子供から大人までが、我々に対して親切に、そして友人のように接してきており、その素朴な人柄にふれることが出来、叙階式のような緊張状態からは既に脱していたのを記憶しています。
夢のような楽しい時間はあっという間に過ぎ去って行き帰国の時が迫ってきていました。
今回、あらためて感じたのは、ナン司祭の人間性と意志の強さが、ご両親と家族、親戚等に支えられて健やかな人間に育っていった背景を垣間見たことでした。二俣川教会での初ミサ日程も決まり、所属教会も発表されて今から楽しく、温かい気持ちにさせてもらい、その日が来るのを心待ちしながら慌ただしかったツアーを終え、帰国の途につきました。

～ナン神父様叙階式　日本で動画配信を見た方々からの声～

☆私は二俣川教会の聖堂で内藤神父様のすぐ後ろの席から叙階式を見守りました。ナン助祭の間はものすごく緊張されていていつもとは全然違うお顔でしたが、叙階後に神学校の稲川神父様の按手を受けると、彼本来の素敵な笑顔がはじけていました。内藤神父様もほっとされ、やはり笑顔でした。

☆長い長い司祭たちの行列でしたね。お式はとてもすばらしかったです。

☆勿論お祝いの気持ちでいっぱいですが、日本で叙階式があったらよかったなぁ、ベトナムまでは行かれなかったから残念でした。

☆ベトナムで叙階式に参加されている信徒の皆さんに心を寄せながら拝見していました。もちろん素晴らしい叙階式でした。でも一番心に残っているのは、栄えある息子さんの叙階式の様子を見つめ涙するお母様の姿です。叙階式を迎えるまでどれだけ神様に問いかけ、お祈りなさったことでしょう。神様にお捧げされた尊いお気持ちを想いましたら、こちらも涙が滲みました。

きょうかいがっこうだより

カトリック二俣川教会　教会学校
2025 年 10 月

【10 月の予定】

- **10 月 5 日（日）　9:00　教会学校**
- **10 月 12 日（日）　9:00　侍者会**
- **10 月 19 日（日）　9:00　教会学校**
- **10月 26 日（日）　バザー**

※みんなで楽しみましょう!!
※教会学校ではクラフトコーナーを企画中

●お知らせ

11 月 16 日（日）10:00 の子どものミサで七五三のお祝いをします
詳細は、別途、ご案内いたします。お申込みお待ちしています

●二学期が始まりました

幼児クラス

かわいい笑顔がそろいました
また、元気に通ってくださいね

小中高生

「すべてのいのちをまもる月間」なので、みんなで天地創造のお話を聴きました。神さまは、すべてよいものとしておつくりになりました。自然も動植物もわたしたち人間もお互いに思いやり、大切にしていきましょう

天地創造の紙芝居

真剣にきいています

神父さまもいっしょで嬉しいですね

聖年特集 Vol.9

21 では、わたしたちは死後どうなるのでしょうか。この境界を越えた先に、イエスとともにある、永遠のいのちがあります。それは、神との完全な交わりに、神の限りない愛を観想しそれに参与するところにあるのです。わたしたちが今希望のうちに味わうものを、そのときには実際に目にするでしょう。聖アウグスティヌスはこれについてこう書いています。「わたしのすべてをささげてあなたに結ばれるとき、何の悲しみも苦しみもなくなることでしょう。そのとき、わたしの生はまったくあなたに満たされ、真に生ける者となることでしょう(16)」。ではこの完全な交わりにはどんな特徴があるでしょうか。それは、幸せであるという事実です。幸福は人間存在の召命であり、すべての人にとっての目標です。

ですが、幸福とは何でしょうか。わたしたちはどんな幸福を期待し、望んでいるのでしょうか。刹那的な喜びでもなければ、かりそめの満足でもありません。そうしたものは、一度手に入れても、貪欲の渦の中でますます要求し、そのような中で人間の魂が満たされることは決してなく、ますますむなしくなるのです。わたしたちは、自分を開花させるもの、すなわち愛において決定的に達成される幸福を必要としています。ですから、今すでにこういえるのです。「わたしは愛されています、だからわたしは存在するのです。そして、わたしは欺くことのない愛であるかたにおいて永遠に存在し、何であっても、だれであっても、そこからわたしを引き離すことはできません」。ここでもう一度、使徒パウロのことばを思い起こしましょう。「わたしは確信しています。死も、いのちも、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、高いところにいるものも、低いところにいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです」（ローマ８・38―39）。

22 永遠のいのちと結びついたもう一つの現実は、わたしたちの生の終わりと、世の終わりとにある、神の審判です。芸術は繰り返しこれを表現しようとしてきました。システィーナ礼拝堂のミケランジェロの傑作を思い浮かべたらいいでしょう。当時の神学の概念を用いて、観る人に畏敬の感覚を伝えています。人生を総括するときに備え、十分な自覚をもって真剣に準備するのは正しいことですから、その間には、つねに対神徳である希望の次元で備えるべきです。希望は、活力を与え、不安に負けないようにしてくれます。愛である神(一ヨハネ４・8、16 参照)の審判は愛に基づくもので、とくに、もっとも貧しい人―裁きを行うそのかた、キリストがそこにおられるのです―に対してどれだけの愛を実践したか、しなかったかのみに基づいて下されるものです(マタイ 25・31-46 参照)

ですからそれは、人間の裁き、地上の裁判所の裁きとは異なります。神のあわれみのはかりしれない神秘における、愛である神との、そして自分自身との真実のかかわりとして理解されるべきです。これに関して、聖書にはこう書かれています。「神に従う人は人間への愛をもつべきことを、あなたはこれらのわざを通してみ民に教えられた。こうしてみ民に希望を抱かせ、罪からの回心をお与えになった。……（わたしたちは）裁かれるときあわれみに依り頼む」（知恵 12・19、22）。教皇ベネディクト十六世も書いておられるとおりです。「審判のとき、わたしたちは、世とわたしたちの中にあるすべての悪に打ち勝つキリストの愛の力を経験し、受け入れます。愛の苦しみはわたしたちの救いと喜びになります(17)」。

したがって審判は、わたしたちが希望している救い、そしてイエスがその死と復活によってわたしたちのために獲得してくださった救いとかかわっています。ですからそれは、主との決定的な出会いに向かわせるものです。そのような状況では、犯した悪が隠されたままであるとは考えられませんから、それは、神の愛へと決定的に過ぎ越せるよう、清められなければなりません。この意味で、地上の生涯を終えた人々のために祈る必要性を理解することができます。その祈りは、聖徒の交わり、すなわち、すべての造られたものに先立って生まれたかた、キリストにおいてわたしたちを一つに結び合わせるきずなから効力を得ながら、連帯して行う執り成しの祈りです。このように聖年の免償は、祈りの力によって、わたしたちより先に召された人々が満ち足りたあわれみにあずかれるよう、特別な方法で彼らのためにも意図されているのです。

(16) アウグスティヌス『告白』（Confessiones, X, 28［『毎日の読書―「教会の祈り」読書　第二朗読』第四巻 127 頁］）。

(17) 教皇ベネディクト十六世回勅『希望による救い（2007 年 11 月 30 日）』47（Spe salvi）。

＊＊＊

第三地区中高生夏企画のご報告

8 月 23 日と 24 日で、第三地区の小学校 6 年生から高校 3 年生を対象とした夏企画が行われました。これまで様々な形で行ってきた夏企画ですが、今年はじめて第三地区青少年デスク主催で行うことができました。4 月から、青少年デスクの指導司祭が磯子教会の谷脇神父様に変わり、スタッフも新大学生や国際色豊かなメンバーが加わり、新体制として行う初めての企画となりました。当日は 6 教会から 14 名の参加者が集まり、こちらもまた外国にルーツを持つ子どもたちも多く、国際色豊かな賑やかな 2 日間となりました。

今年のテーマは**「光あれ！希望はどこから？～χάος(カオス)から κόσμος(コスモス)へ」**でした！聖年のテーマからインスパイアを受け、「希望とは何か」「希望はどこから生まれるのか」「自分自身も希望となれること」を感じでもらいたいというスタッフの思いから、このテーマが決まりました。子どもたちにとってまずは頭に「？」が浮かぶ、難しいテーマであることはもちろんなので、２日間を通して言葉や体験によって段階的にテーマの解像度をあげることを意識して企画を準備しました。

1 日目は二俣川教会にて、分かち合いに盛り込んだアクティビティ(盲人体験やパズル)を通して、闇や混沌について、そして神様の御胸ならばそれらは必ず調和へと繋がっているということを体験的に感じ、わかちあいました。夕食はボランティアの方々のご協力により栄養満点の豪華なお食事を皆で頂くことができました。二俣川教会の夕食ボランティアさん、そして銭湯への送迎ボランティアさんの皆様にこの場を借りて改めてお礼申し上げます。そして夜には、夏といえばの花火を楽しみ、ロウソクと共に祈りを捧げる夕の祈りで 1 日目を締めくくりました。

2 日目は谷脇神父様のいらっしゃる磯子教会を訪問しました。教会委員長の S さんが磯子教会の歴史についてお話ししてくださいました。教会内には 4 つの建物がありますが、現聖堂を含めた 3 つの建物は、歴代の聖堂の建物だというお話に驚きました。そして、

昼食は餃子作り。班対抗でクイズをして具材を選び、オリジナル餃子を作りました。そのあとは夏の暑さを吹き飛ばす、庭での水遊びも行いました。みんなビチョビチョで自然と笑顔が溢れ、中高生らしい可愛らしい姿を見せてくれました。最後の派遣ミサでは、共同祈願で参加者たちの感想を含めた祈りを捧げ、「また来年も来たい！」という言葉をたくさん聞くことができ、スタッフ一同嬉しい限りでした。

春から時間をかけて準備を進めてきました。闇の中にあっても、神様の道を歩むことが光へと繋がっており、それ自体が希望である。そして私たち自身もそれを行うことによって希望そのもの…希望の巡礼者となれるということ。それを子どもたちが、この２日間を通して少しでも感じてくれていたら幸いです。そして、普段の生活でも神様の子どもとして、希望の人としてその道を歩むことを、喜びとしてくれると嬉しいです。スタッフの私たち自身、難しいテーマの準備をするために多くを語り合い、それを通してたくさんのお恵みをいただきました。神に感謝！最後に、二俣川教会の信者の皆様のたくさんのご支援に感謝致します。これからも見守っていただけますと幸いです。ありがとうございました。

青少年デスク代表
マリア・セシリア　T. A.

＊＊＊

二俣川教会ニュース

●９月 14 日、敬老のお祝いが行われました。今年も 77 歳以上のお祝い対象の皆様が 80 名以上ミサに集われ、共に感謝のミサを捧げることができました。神に感謝！敬老のお祝いの様子は、次号にて分かち合います。

●８月４日に司祭叙階されたナン神父様の二俣川教会での初ミサが、９月 28 日(日)に行われました。お説教は神学院の林正人神父様が担当され、内藤神父様とナン神父様と同期のヴー神父様が共同司式されました。この日は世界難民移住移動者の日でもあり、第２朗読や共同祈願の一つが英語で読まれ、民族衣装を身にまとった外国籍の方々が奉納物を捧げました。ミサ後のセレモニーでは、参列された 300 人近い方々が、ナン神父様から祝福の按手をいただきましたが、どの方も感謝と感激の面持ちでした。その後、二階で祝賀パーティーが盛大に開かれました。（詳細報告は次号に掲載いたします。）

《 今月の意向 》　　■10 月

教皇の意向：　さまざまな宗教的伝統間の協力
さまざまな宗教的伝統を信じる人々が、平和、正義、人類の友愛を擁護し促進するために、互いに協力することができますように。

日本の教会の意向：　被造物、すべてのいのち、自然環境
私たちが教皇フランシスコのメッセージを受けとめて、よりよい環境を保護し、すべてのいのちを守るために歩むことができますように。

（カトリック中央協議会ウェブサイトより）

＊＊＊